

## 第47回中東協力現地会議の開催 ～「混迷を深める中東での日本のビジネス戦略」をテーマに議論～



中東協力センター専務理事 表 尚志

当センターは、経済産業省の後援を得て、去る8月22日、23日の両日、オーストリアの首都ウィーンにおいて、第47回中東協力現地会議を開催いたしました。

本会議は、日本企業が中東諸国との中長期的なビジネス環境を見据え、現地の状況を深く理解し、重層的かつ持続可能な関係を構築することを目的として、1976年以降、これまでに46回開催されてきました。今回は、経済産業省、外務省、日本企業、内外の中東専門家など220名あまりが参加し、「混迷を深める中東での日本のビジネス戦略」をテーマに議論が行われました（プログラムの詳細は24～25頁をご参照ください）。

中東地域の地政学的状況を振り返ると、2020年9月のアブラハム合意により、UAEなどのアラブ諸国がイスラエルとの国交正常化を進めました。また、2021年初めには、サウジアラビア、UAE、バーレーン、エジプトが、約3年半ぶりにカタールとの国交を回復しました。さらに、2023年上半期にはサウジアラビアとイランが国交を回復するなど、一時的に緊張緩和の動きが見られました。しかし、10月に発生したパレスチナの武装組織ハマスとイスラエルの紛争の激化により、再び情勢が混迷を深めています。

経済面においても、中東各国が中長期的な国家ビジョンに基づき、エネルギー資源への過度の依存を脱却し、経済の多角化を進める中で、外国企業からの対内直接投資が減少し、その達成に支障をきたしています。さらに、紅海での船舶攻撃に伴い、スエズ運河の通航船数や紅海沿岸の港での貨物量が減少するなど、国際貿易に混乱が生じ、サプライチェーンの脆弱性が浮き彫りとなりました。

本会議では、このような不安定な状況下において、日本企業が中東でのビジネス戦略を構築するために必要な政治・経済・安全保障に関する包括的な紹介、分析が行われました。さらに、米国、中国、韓国、インドなど各国の政策も考察しながら、深い議論が展開されました。

### パネル議論：「イスラエルに対するアラブ諸国およびイランの外交戦略の変化と日本企業のビジネス戦略」

本会議の最後には、「イスラエルに対するアラブ諸国およびイランの外交戦略の変化と日本企業のビジネス戦略」をテーマにパネル議論が行われました。モデレーターからは以下の質問が投げかけられ、パネリストの皆様による多角的な議論が展開されました。

1. 「ガザ紛争」の影響が各分野にどう及んでいるか。
2. 現在の「地政学的環境」をどう捉えているか。
3. 「米大統領選挙」の影響をどう見積もっているか。
4. 中東の「新しい動き・事象・変化」をどう感じているか。

ここでは、4の「中東の新しい動き・事象・変化」に関するパネリストの発言内容を紹介いたします。

## パネリストの発言骨子

### 若手リーダーの台頭と技術革新の潮流

過去15年間にわたり中東諸国と関わってきた経験から、当初は中東の政府関係者が持つビジョンや意図を理解することが困難であった。しかし、近年では欧米で教育を受けた若手リーダーたちが台頭し、明確なビジョンと熱意を持って国全体を変革しようとしている。特に、技術革新を推進し、石油依存から脱却しようとする姿勢が顕著である。

日本企業は、この新しい潮流に対応し、単なる追従ではなく、協力体制の強化が必要である。日本企業同士が協力し、各社の強みを活かしてフラッグシップ・プロジェクトを創出することが成功の鍵となる。また、日本の中東へのアプローチには、さらに積極的な取り組みが求められる。

### ADNOC との協力と脱炭素化への取り組み

最近、UAE の国営石油会社 ADNOC と融資契約を結んだが、先方のカウンターパートが若い CFO であったことから、確実に世代交代が進んでいることを実感した。ADNOC は、従来の化石燃料依存から脱炭素化への転換を進める中で、最初のグリーン・ファイナンスの調達先として日本を選んだ。これは、これまで培ってきた信頼関係の賜物である。これを新たなビジネス分野にどのように繋げていくかが今後の課題であり、日本が中東の低炭素ビジネスにどう対応していくかが重要である。また、急速に進展するAI技術関連のビジネスが石油依存の経済構造に与える影響にも注目しており、日本企業がその動きにどう適応するかが重要な課題である。

### 中東の産業構造変革と比較優位の変化

化石燃料に依存する産業が中東諸国の経済成長を支えてきたが、CO2の大量排出により、この比較優位が2010年代以降、環境負担としての比較劣位に変わった。脱炭素化の流れの中で、中東諸国は産業構造の変革を急務とし、サウジアラビアでは政府系ファンド PIF を活用してエンタメや観光など非製造業への戦略的投資を強化している。従来の国内に拠点を設けるとか工場を作るとか、自国民の優先雇用とは違う発想で動き始めており、さらにキャピタルゲインや配当だけにとどまらず、知的財産権の獲得をも目指している。中東諸国が戦略的に動き始めている現状を認識し、日本企業がその変化にどう対応するべきかを慎重に考慮する必要がある。

### 米中対立と中東マネーの動向

世界から中国に集まった資金が逃げ出している現状で、習近平政権は対内直接投資の確保に躍起になっている。中東諸国がAIや半導体など、これまで縁が薄かった分野に投資を望んでいるという流れと、資金を確保したい中国のニーズが微妙に結びついている現状は、技術覇権を巡る米中対立と中東マネーが絡む興味深い地政学・地経学の分野である。

### モデレーターによるまとめ

中東における世代交代と若手リーダーの登場により、従来の固定観念が覆されつつある。かつて懐疑的だった中東の変化は、今や非常にエネルギーで前向きな方向に進んでいる。日本は中東の新しいリーダーたちと協力し、共に成長するために、従来の枠組みを超え、新たな人材育成や技術開発に積極的に取り組む

必要がある。また、AIや安全保障分野での新しい取り組みが急速に進む中で、日本の政府や企業が持つ知見やノウハウを活用し、新たなパートナーシップを築くことが重要である。

## 最後に

本会議は、不確実性が高まる中東情勢において、日本企業が進むべき方向性を探り、日本と中東が互いに利益を享受できる関係を築くための貴重な機会となりました。また、対面でのネットワーキングセッションやモーニングセッションにも多数のご参加をいただき、中東ビジネス関係者が対面での交流を強く望んでいることが再確認されました。

最後になりますが、ご登壇いただきました皆様、ご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

中東協力センターは、本会議での議論やアンケート結果を踏まえ、今後も中東と日本、官と民の「結節点」としての役割を果たすべく、引き続き全力を尽くしてまいります。



宮永会長 開会挨拶



会場の様子



モーニングセッション



パネル議論



第47回中東協力現地会議プログラム  
『混迷を深める中東での日本のビジネス戦略』

2024年8月22日（木）、23日（金）

オーストリア共和国・ウィーン（会場：InterContinental Vienna）

【1日目：8月22日（木）】

- 09：00～09：05 開会挨拶 中東協力センター会長 宮永 俊一
- 09：05～09：10 来賓挨拶 オーストリア駐箚特命全権大使 水内 龍太氏
- 09：10～10：10 基調講演Ⅰ 「対外経済政策を巡る最近の動向と経済産業省の取組」  
経済産業省経済産業審議官 松尾 剛彦氏
- 10：10～10：30 《休憩》
- 10：30～11：30 基調講演Ⅱ 「最近の中東情勢」（オンライン講演）  
外務省中東アフリカ局長 安藤 俊英氏
- 11：30～12：40 基調講演Ⅲ 「反イスラエル感情と国際社会の不安定化」  
東京大学先端科学技術研究センター教授 池内 恵氏
- 12：40～14：00 《昼食》
- 14：00～15：00 基調講演Ⅳ 「中東の混迷と大国の関与：米中韓印等の中東外交・経済戦略」  
Dr. Flynt Leverett, Director of Research, STRATEGA
- 15：00～15：50 カントリーレポート（1）
- イラン駐箚特命全権大使 塚田 玉樹氏（オンライン講演）
  - イスラエル駐箚特命全権大使 新居 雄介氏（オンライン講演）
- 15：50～16：10 《休憩》
- 16：10～17：50 カントリーレポート（2）
- トルコ駐箚特命全権大使 勝亦 孝彦氏
  - アラブ首長国連邦駐箚特命全権大使 磯俣 秋男氏
  - エジプト駐箚特命全権大使 岡 浩氏
  - サウジアラビア駐箚特命全権大使 岩井 文男氏
- 18：15～20：15 《ネットワーキング（レセプション）》

【2日目：8月23日（金）】

07：30～09：00 《モーニングセッション》（講演者ごとの会場で実施）

- 経済産業省経済産業審議官 松尾 剛彦氏
- アラブ首長国連邦駐劔特命全権大使 磯俣 秋男氏
- イラン駐劔特命全権大使 塚田 玉樹氏（オンライン講演）
- エジプト駐劔特命全権大使 岡 浩氏
- サウジアラビア駐劔特命全権大使 岩井 文男氏
- トルコ駐劔特命全権大使 勝亦 孝彦氏

09：30～10：30 講演Ⅰ 「エネルギーを巡る環境の変化と今後の見通し」（オンライン講演）

国際エネルギー機関エネルギー市場・安全保障局長

貞森 恵祐氏

10：30～11：30 講演Ⅱ 「ガザ紛争が生み出す中東政治構造の行方」

神戸大学大学院国際文化学研究科教授

中村 覚氏

11：30～11：45 《休憩》

11：45～12：30 講演Ⅲ 「エネルギー/資源を巡る状況とサプライチェーン」

(株)国際協力銀行

常務執行役員 資源ファイナンス部門長

天野 辰之氏

12：30～13：45 《昼食》

13：45～15：35 ビジネスレポート

- アラブ首長国連邦：伊藤忠商事(株) 伊藤忠中近東会社 アブダビ支店長  
勝田 先紀氏
- オマーン：丸紅(株) オマーン支店長 並木 慎吾氏
- サウジアラビア：(株)三井住友銀行 SMBC Advisory Services  
Saudi Arabia LLC CEO 吉田 一友氏
- トルコ：双日(株) Istanbul PPP Sağlık Yatırım A.Ş. CFO 藤井 俊輔氏
- 中東 DX の動き：(株)モンスターラボ Head of International Marketing  
荒巻 光平氏

15：35～15：50 《休憩》

15：50～17：20 パネル議論 「イスラエルに対するアラブ諸国およびイランの外交戦略の変化と日本企業のビジネス戦略」

モデレーター：東京大学先端科学技術研究センター教授

池内 恵氏

パネリスト：経済産業省通商政策局中東アフリカ課長

渡邊 雅士氏

(株)国際協力銀行

常務執行役員 資源ファイナンス部門長

天野 辰之氏

(株)日本経済新聞社 客員編集委員

脇 祐三氏

17：20～17：30 閉会挨拶 中東協力センター理事長

小平 信因

＃ ＃ ＃